

横浜市小学校社会科研究会

学年部会

研修会記録

第5号

令和5年11月1日
横浜市小学校教育研究会
会長 濱田 哲也
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 本間 宏志

【提案日時】

10月 5日 (水)

提案 和田 愛子 先生 (大道小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 曾根 美奈子 先生 (寺尾小)

記録 八木 浩司 先生 (南吉田小)

単元名：『地震・津波に備える金沢のまち～津波対策～』

提案者より

- ◎子どもはどの単元よりも意欲的に取り組んでいた。
- ◎個の見とりを最大限生かしたことで、子どもの学びの実態に応じた支援ができてきた。
- 新たな考えを生み出すためにはどんな手だてが必要か。
意図的指名 など 効果的な方法はあるか。
- 本時の中で学習問題と話がずれてしまった。
発言の多い児童をどのように生かしていくのか。
- 中心児童だけで学習問題の追究が進んでしまったときの教師の指導性について。

抽出児童について

- ・A児 資料からの発言を期待→手だてを重ねることで、資料からの発言が増えた。
- ・B児 自分の考えをまとめることに課題がある
→生活経験に働きかけたことで、自分の考えをもつことはできていた。考えをまとめることに関しては、今後も支援をしていく。

協議内容

視点①

成果

- ①実際の事例を通して、災害への危機意識をもたせたことから、単元を見通す学習問題が成立し、そこから学習計画を立てることができ、主体的な学びにつながっていった。
- ②調査活動や話を聞く活動を取り入れたことで、進んで学ぶ様子が多く見られた。

視点②

- 子どもたちの考えをみとり、自分の考えをもつことが難しい児童に対し、個に応じた支援をすることで、一人ひとりが考えをもって話合いに参加することができた。
支援例) 地図や写真をロイロノートの資料箱に入れて、いつでも見られるようにした。

→授業外の時間にも見て、考える様子が見られた。

支援例) 資料の意味を理解することが難しい児童と一緒に読み取りをした。

【B児への支援】

→資料が読み取れたことで、考えをもって話合いに参加することができた。

○資料提示を工夫することで、子どもたちが共通して考えることができるようにした。

資料例) 第7時市区町村や自衛隊などの関係機関のつながりが分かる資料

第8時写真をつけたハザードマップ

<講師の先生より>

大曽根小学校 副校長 中野 直茂先生

単元づくりの視点

- ・心の距離を近づける手立て⇒×「遠いどこかの話」
→自分事として、自分の生活につなげることが大切。

本時の中で学習内容がずれてしまったことについて

- ・本時の学習問題とずれていることに気づける力も重要。
- ・教師は価値づけや修正を行うことで、指導性を発揮できるとよい。

本時について

中心児童だけで話が進んでしまうということもあったが、教師の問い返しとして、「〇〇さん、分からないところはどこかな？」など、全体に広げてみることで、考えを交流しやすい環境を創れる。

文責 佐藤 安世 (北綱島小学校)